

平成28年度企画提案型協働事業 各提案の審査経過及び委員会意見

	提案事業概要 (名称、団体、内容)	アイデア審査 ／公開審査会 (8/19)	最終審査 ／公開審査会 (10/7)	積算金額 関連部署
1	道作古墳群歴史広場の維持管理事業	—	適 (適10, 否0)	1,013,000円 生涯学習課
	NPO法人小林住みよいまちづくり会			
	道作古墳群歴史広場の草刈り、樹木管理、広場の清掃等年間の維持管理を実施しながら、文化財普及イベントを行い、市民が安全に憩えるふれあいの場とする。			
2	竹袋調整池と周辺地域の維持管理事業	—	適 (適10, 否0)	3,095,000円 都市整備課
	NPO法人エコネットちば			
	竹袋調整池とその周辺地域において、四季の花による花畑の整備、定期的な草刈、日々のごみ清掃等を年間を通して実施し、快適な景観維持と環境保全を行う。			
3	印西市木下地区歴史講座	—	適 (適9, 否1)	589,100円 生涯学習課
	木下まち育て塾			
	吉岡まちかど博物館や地域の公共施設等を会場に、「木下河岸から小網町行徳河岸へ—市民と学ぶ江戸・東京への道、木下街道—」と題し、木下河岸及び舟運の歴史を学習する講座、講演会、郊外学習等を開催する。			
4	荒れた里山の整備事業	可 (可7, 否4)	— (申請なし)	—
	里地里山保全ねっと			
	手入れされず放置されているため、道路の通行の妨げとなったり、ゴミの不法投棄場所となっている里山をリストアップし、優先度の高い順に整備していく。			

	提案事業概要 (名称、団体、内容)	アイデア審査 ／公開審査会 (8/19)	最終審査 ／公開審査会 (10/7)	積算金額 関連部署
5	地域住民への身体活動増進プログラムの提供	可 (可 10, 否 1)	適 (適 8, 否 2)	1,190,000 円 健康増進課
	ALipro 参加者の歩数計データを管理し、身体活動の履歴や達成状況を効率的に確認することで、運動習慣のない地域住民に、散歩、買い物、家事など日常的な身体活動の増加を促す。			
6	印西市エンディングノートの作成と配布	否 (可 4, 否 7)	—	—
	エンディングサポート風 これまで地域社会や親族で対応されてきたエンディング期の諸問題への支援として、印西市独自のエンディングノートを作成し、高齢者世帯に配布する。			
7	アドラー心理学による 「勇気づけコミュニケーション」のすすめ	可 (可 7, 否 3)	適 (適 7, 否 2)	118,000 円 市民活動推進課
	勇気づけサークルでこぼこピース 指定テーマ「男女共同参画に関わる啓発事業の実施」への提案として、子育て世代を主な対象に、アドラー心理学による家族関係に対する啓発講座、講演会を実施する。			

※提案 1～3 前年度実施事業（最終審査のみ）

提案1 企画提案型協働事業 道作古墳群歴史広場の維持管理事業 平成28年度最終審査 委員会総合意見

- 1 文化財の保全活用によるまちづくりに貢献している素晴らしい事業です。郷土の歴史・文化の新たな発信拠点となるよう、提案者と市の取り組みに期待します。

各委員の参考意見（ふせんの転載）

やっぱり広報

- ・市と協力して、広報ツールを整えてより多くの人に来てもらえる発信をしてほしい。
- ・まだまだ認知が少ないので広報活動を強化願いたいこと及び、考古学関係の学界やその他関係団体との連携も図っていただきたい。
- ・見学会の来場者を更なる動員増加を見込める活動をお願いします（小林地区外からの動員）。
- ・協働事業として価値が認められるので多くの市民に知って頂けるようにHPや広報誌の内容について市と協働で充実して行くよう努力して頂きたい。（出土品や文化的意味についても広報して頂きたい。）
- ・道作古墳群を活用した種々の活動が、地域自治会のみならず、印西市全域に周知されるよう、継続的に検討して下さい。

市との協働で周知・歴史ロマンを多世代に

- ・アンケート結果の反映、審査員の意見の反映等、取り込んで取り組みをしていることは素晴らしいことだと思います。これからも周りの意見等の反映宜しくをお願いします。
- ・市役所へのお願いです。交流の杜の歴史資料センターには、小林古墳群の出土はあるが、これだけ規模の大きい古墳群の紹介をもっとして欲しい。
- ・ロマンを感じさせる資料はもう少し濃いものにしていただきたい。（地理の勉強より歴史の部分を充実しては）
- ・行政との協働、特に市側が何をやっているかが見えてこない。協働であれば、市は〇〇をしているということがはっきりと示される必要がある。
- ・HP、瓦版を拝見し、手入れの様子より、長年の活動の御苦労が伝わってきます。事業内容もアンケート結果を反映できるよう具体的だと思い、継続の意義を感じます。より市民にとって安心できる場となるよう続けて下さい。学校に出張講座に行くなど広めていくことはとてもよい方法と思います。

期待してます

- ・貴法人の他の事業との連携をさらに強めることにより、当事業のソフト・ハード面での拡充をめざして下さい。
- ・メンバーの人的資源活用、ボランティアの組織化がこの事業の強みです。⇒継続を期待しています。
- ・市民の憩いの場として、気楽に立ち寄れるようさらなる整備をお願いします。（例えば、常設の簡易トイレの設置など）
- ・印西の歴史のロマンを広く印西市民に知らしめていく活動は、それに関連するイベントとともに、地味な協働事業であるが、重要な維持管理事業を続けていると思われる。

提案2 企画提案型協働事業 竹袋調整池と周辺地域の維持管理事業 平成28年度最終審査 委員会総合意見

- 1 景観保全によるまちづくりに貢献している素晴らしい事業です。市と協働で市民の憩いの場を継続的に維持する取り組みに期待します。

各委員の参考意見（ふせんの転載）

実績の評価

- ・心を込めた大きな労働があつての癒しの空間だとその努力を労りたいと思います。この維持管理を続ける為、団体の負担を増やすことなく、市との分担をすすめていただきたいと思います。
- ・ウォーキング大会など手入れされた場所をみんなで楽しめる企画は、知らない方にも知っていただく機会と健康増進のアイデアとしてとてもおもしろいと思います。多勢の人に自然を味わっていただけると嬉しいですね。
- ・市民に愛される憩いの場となっているこの環境を是非継続して下さい。市民のニーズが高い事業である。市との協働事業としてふさわしいと思われる。
- ・自然を相手にしたお祭り、なかなか花の見頃と一致させるのは難しいかもしれませんが、今後も癒しの場、憩いの場として市民が楽しめる場として頂ける様お願いします。

実施する上での留意点

- ・繁茂する草の除去や、舗装のクラック修繕等も市と協働で解決する仕組みを考えていただき、課題解決を図っていただきたいと思います。
- ・コスモスまつり等のイベント事業については、協働事業のメニューのひとつとして計上した方が望ましいのではないかと。団体負担が計算上明確になって良いと思う。
- ・事前協議チェックシートにおいて、事業費の積算について、一部の仕様が確認できない旨の記載がありますが、事業の実施に当っては、仕様を具体化し、効率よく経費を活用するように努めて下さい。
- ・将来に向けても、継続的に調整池周辺の環境整備ができるようなしくみについて市と一緒に考えていって頂きたい。周辺への健康増進施設の整備というのはひとつの良いアイデアと思われるので継続して市と協議して頂きたい。

担い手

- ・将来的には、人材問題（後継者等）の課題があると考えられますので、是非、解決されて継続していただきたいと思います。
- ・活動の担い手が増える工夫を。
- ・学校の環境教育活動と連携するなど、若い世代へのアピールもいいのでは。

事業継続の方法を検討

- ・事業の落とし所を今から考えておいて下さい。このまま同じ事業内容では、いずれ見直しが必要になると思います。どこまでやるか、目標を定めておくことが必要だと思います。（以前も同様な意見を述べましたが…。）
- ・水辺の維持管理をNPOが8年目実施というのは協働事業の成功例ですが、協働事業として提案が難しくなる今後備えて、今からこの事業の継続の方法を考えて下さい。
- ・近くに福祉施設、木下駅、印西市役所があり、いつもきれいな水辺の場を提供（市民に）すること

は重要だと思う…。しかし、毎期、毎期、同じように定期的な草刈、花畑の整備、排水口のごみの除去、水草の除去等をくりかえしている。そして、毎期300万越えの積算金額（コスト）が発生している。アスファルト道路等をもっとふやすとか、調整池をもっと深くし（2m以上の深さ）その底をセメントで固めるとか、そろそろ抜本的な対応が必要かと思われる。

提案3

企画提案型協働事業 印西市木下地区歴史講座 平成28年度最終審査 委員会総合意見

- 1 まちの歴史継承、地域の文化振興に貢献する貴重な事業です。活動の効果を高める新たな取り組みにも期待します。

各委員の参考意見（ふせんの転載）

成果指向で

- ・事業提案は歴史講座ではない。協働事業の必要性、効果を明確に説明できるようにしてほしい。
- ・歴史を学んだことによる効果を意識した事業にして下さい。
- ・講座を聞いて、果してどれだけの方が自分の地域に愛着を持つのか疑問。
- ・地域社会が抱える課題として新旧地区の融合をテーマとしているが、現状効果は稀薄である。

偏ってはダメ

- ・講座のジャンルを広げて、興味のある人を増やしていくことも必要だと思います。
- ・歴史マニアの集まりとしか思えない。
- ・昨年から大きく変っていて評価できます。但し、次のステップとして他の歴史研究との関連もありますが、講座内容を少し広くとらえて、動員数拡大をおねがいます。

しっかり集客

- ・これまでの内容から一步ふみこんだ企画に進んだことは一定の評価ができる。一方参加者が広がることも重要で、集客には十分留意していただきたい。
- ・今までの提案内容を刷新され、体験型をとり入れることは、とても興味のもてるものと思われる。
- ・木下地区だけでなく、活動範囲が広がることで新しい参加者も増加する期待ももてるので、広く告知の方法を考えることが必要と思う。
- ・講座内容を刷新されるとのことですので、会場の広さの為の制約はあるかもしれませんが、受講者数の増や受け手の裾野が広がるように、企画の広報や活動実績のアピールの仕方等、工夫を重ねていただきたいと思います。
- ・活動としては評価される内容であるが、課題としているNT地区住民への故郷意識の醸成という面では、対象としている市民や対象が限られているように思われる。市と協働で、講座や活動内容が多くの人に伝えられるような広報や、活動範囲（対象市民）の拡大を検討して頂きたい。

事業をさらに一工夫

- ・地域の歴史講座開催事業を継続されることは、企画内容のマンネリ化、参加者数減少、固定化との闘いだと思います。これまでの受講生、塾生を人的資源として事業発展のための試みを大胆に続けて下さい。
- ・団体の自主事業として（ボランティアガイド）展開していくことも検討してはどうか。
- ・経費が少々かかるように思うので、もう一度、見直す必要があると思う。

結果が楽しみ

- ・地元の歴史を知るということは、地元への愛着心、誇りに繋がると思います。地元活性化に向けて、幅広い活動を続けて頂きたいと思います。
- ・江戸から明治にかけて木下街道という「道」と利根川という「川」の両面によって発展した木下という都市を、今回は一層市民に知らしめる講座内容になっていて、広がりを感じます。

提案 4

平成 28 年度企画提案型協働事業（アイデア審査） 荒れた里山の整備事業 提案に関する委員会付帯意見

- 1 アイデアの意義は理解できますが、実現に向けては具体的かつ実行可能な事業計画が必要です。
- 2 活動実績に乏しく、構成員も少ない現状では、実施体制に課題があると思われます。確実に実施できる体制づくりに努めてください。

各委員の参考意見（ふせんの転載）

具体性×

- ・事業計画の明確性が不明。事業計画に具体性がない。
- ・具体性に欠ける。アイデアレベルであっても、提案者が事業に対して抱いているイメージはもう少しわかりやすく伝える必要がある。
- ・里山保全活動の意義は理解できるが、印西市の協働事業として提案内容にももう少し具体性をもたせてほしい。
- ・本年事業を立ち上げたばかりで、活動実績がないし、又、事業のアイデアそのものが夢みたくて実現性に疑問が残る。そして、所有者との境界の線引きにおいては、専門性が必要であるし、今後クレーム（所有者との）が多発する可能性が考えられる。
- ・活動実績がなく、実施体制（4名）が万全でないため専門性に疑問がある。作業費も不明確。
- ・豊かな里山を残すことは、千葉ニュータウンという地域社会が抱える課題の1つだと思いきや、里山というものが個人の所有である以上、深く入れない部分があると思う。整備に必要な里山を所有者から希望が出るよう、里山のリストアップの方法を変える必要があるのではないだろうか。

イメージ必要

- ・リスク管理が不明確。
- ・市と協働する役割分担が不明。
- ・過去の実績が無いのは非常に不安要素である。

期待できるアイデア

- ・荒れた里山を整備する事業そのものは、市民の快適な生活環境を構築する上で重要なことだと思いますので、是非実現して欲しい。
- ・大賛成で、すばらしい発想で同感です。是非、がんばっていただきたいのですが、整備事業の範囲とマイルストーンを概略でも良いから、明示する必要があると思います。
- ・単なる整備だけではなく、「荒れない里山」づくりのしくみについても是非知恵を絞って頂きたい。このような方向性の方が公共性が高いと思われます。
- ・印西市の市民活動団体の中でも、里山の保全整備に取り組んでいる団体もかなりありますので、相互の連携を密にし、無駄のない活動にして欲しいと思います。
- ・一部の地域では地主の了解を得て他のNPOが保全活動等を行っている所もある。他の活動との調整や配慮についても考慮して頂きたい。何故本事業のみが市との協働事業なのかと言われたいような取り組みとして頂きたい。

次はしっかり計画を！

- ・ 次回の提案では事業内容、予算を具体的にして下さい。
- ・ 良好な里山環境・自然環境を中長期的に維持する仕組みの構築が実現できるのであれば、画期的な取り組みになると思いますが、所有者・ボランティア・行政の各プレイヤーをとりまとめる・つなぎ合わせる為に、貴団体がどのような活動を行うのか、事業プランをもうひと練りしてほしいです。
- ・ 事業内容が多岐にわたるため、今年はどこまでやるかという目標や段階の考察が必要。自分達でどこまでやり、市にどこまでやってもらいたいかの希望も明確にする必要があるのでは（専門性もあるため）。もう少し小規模の計画をすれば可能と思う（1年で出来る範囲）。計画を作り直せばOKになるのでは。
- ・ 他のボランティア団体や市民参加で整備できるプログラム等を事業内容に入れてもいいのではないのでしょうか。
- ・ アイデア審査が通った場合、どこまでできるのか、予算、行程表等しっかりした提案を出して下さい。
- ・ 事業アイデアとしては、興味深いですが、各プレイヤー（所有者・行政・ボランティアなど）をどのようにつなぎ合わせて里山の環境維持を実現していくのか、をもうひと掘り、より具体的に企画して下さい。
- ・ 今年度の事業計画として実施するのであれば、ある程度人員（他ボランティアも含め）の確保をしてからでなければ難しいのではないのでしょうか。⇒計画として、どの程度の人員が必要なのかによって予算も決まってくるので。

提案5 平成28年度企画提案型協働事業（アイデア審査） 地域高齢者への身体活動増進プログラムの提供 提案に関する委員会付帯意見

- 1 なるべく多くの高齢者が参加できる仕組みづくりに努めてください。
- 2 継続性が重要になる事業だと思われるので、資金調達や実施体制など、長期的な展望について具体的に検討してください。

各委員の参考意見（ふせんの転載）

目的・内容が明確

- ・地域社会が抱える課題を的確に捉えている。
- ・事業の目的や内容が具体的である。
- ・市との協働により、効果的でより質の高いサービスが提供できると思われる。
- ・地域高齢者の活性化はどの地域でも必要であるが、印西市は散歩等に相応しい地域であり、取り組みやすい事業であると思う。
- ・市の役割が明確。
- ・市の担当者としっかり話し合っ、市の事業として行う上での位置付けを確認する必要がある。
- ・健康長寿を目指すための事業アイデアとしては、独創性があり、試験的な取組み実績もあるため、事業としての具体性も明確と考えます。次のステップとしては、印西市の担当部局が ALIpro さんの事業を理解し、印西市として協働事業として取り組む or 取り込めるか否かの検討になると思います。まちづくりファンドの資金の件が、いずれ協働事業の募集要項に抵触するおそれがありますが、市の担当部局とより事業内容を詰めたうえで、ファンドを使うか協働事業で行くのかを判断してもよいのではないのでしょうか？事業アイデアとしては独創性があり、また具体性も明確と考えます。

事業計画

- ・高齢化社会は今後ますます深刻な状況になってきている現状を考えた時、高齢者向け program は重要と考えます。歩数計の活用のみならず、他の tool、program を活用した支援策を望みます。
- ・アクセス point の選定が、参加者の拡大につながると思いますので、是非多くのアクセス point を設立して頂きたい。
- ・計測対象が歩数のみという簡便なプログラムなので、より多くの高齢者が参加でき、その結果元気な高齢者の地域参加に寄与できるのではないかと。
- ・歩数計とデータ管理を行うことで、外に出る機会、コミュニケーションが増えることはよいと思う。
- ・将来的に、何人ぐらいまで拡大可能かを明確にする必要があると思いますが、健康増進ツールとしては、やる価値ありと考えます。
- ・総務省等のスマートウェルネスシティ構想の実現につながる等、自治体にも協働のメリットが出るようなビジョンや方策も同時に検討して頂きたい。
- ・予防医療・健康増進に関する手法は、身体活動増進＝歩くだけでなく、血圧、体重等や他いくつかの活動要素を組み合わせる必要もあると思います。
- ・事業の内容は明確であるが、すでにスマートフォンアプリを活動した類似のプログラム（歩数計付きのスマホがほとんどであるし、又、ポケモンゴーも歩くスマホのゲームである）があるし、新しいアイデアとは思えない。又、1日40分以上の歩く日常的身体活動は、高齢者には、苦痛である

と思うし、費用対効果の面で必要経費、年120万円程度も、何か市民への2重投資の意味合いが強く（高齢者社会で2025年には団塊の世代がすべて75歳を超えるし、ほとんど今、団塊の世代より後の世代はスマホを使っている）なると思う。アイデアとして、少し古いかなと考えます。

- アイデアは良いが市との協働事業としては対象が限定的であるように思われます。市の協働事業とするためには、市民全体の健康増進を促す多様なしくみづくりや分析結果を他の行政施策に生かせるようなデータの共有（参加者だけでなく市も含め）システムの構築なども重要な取り組みと思われま
- 高齢者の健康維持を日常身体活動である散歩、買い物、家事などの増加をすることで促すアイデアは、わざわざ運動を行うということではないので高齢者には取り組みやすいアイデアだと思う。共通の歩数計でグループ内で共有することは、仲間意識を維持することになると思います。5年後、参加者の70%がクリアし、広がっていくことを期待しています。

継続性

- 経済的な視点に欠けている。いつまで公的なお金で続けていきますか？
- 協働事業終了後の展開については、要検討。もう少しアイデア必要。
- データを集めて効果を測定する事業なので、ある程度の継続性が必要となる。長期的事業をするための展望を今から具体的にもってほしい。

提案5

企画提案型協働事業 地域住民への身体活動増進プログラムの提供 平成28年度最終審査 委員会総合意見

- 1 市民の健康増進に資する企画提案として評価します。地域が取り組む予防医療の新たなモデルとなるよう期待します。

各委員の参考意見（ふせんの転載）

実施に向けての意見

- ・市民の健康増進のためには、必要な事業だと思いますが、対象者の絞り込みは、市民への理解を得るのが大事だと思うので、御検討願います。
- ・参加者にある程度費用負担をさせるのはどうでしょうか。逆にそうすることで長続きすると思われる。
- ・40才以上の地域住民に対象を拡大したことで参加される幅が広がったと思うが、費用がかかりすぎるように思うので、初年度は参加募集の人数を少なくすることも考えられると思う。
- ・プログラム（協働の内容）は明確であるが、すでにスマートフォンアプリを活用した類似のプログラム（歩数計つきのスマホがほとんど）があるし、費用対効果の面で委託費（市から団体への委託費119万円）は、市民への無駄な二重投資の意味合いが強いかないと考えます。40歳以上の中高年を、このプログラムのターゲットにしたのは、適切だと思う。（65歳以上のターゲットから変更）
- ・予防医療分野に関する取り組みは重要であると考えますが、市との協働については若干課題があると思います。
- ・競争意欲だけを強調するのはいかがなものか。逆にやりすぎて健康を害することにはならないか。
- ・健康にかかわる情報は、センシティブな個人情報であり、それらを共有する場合の協定についてはしっかりと整えて下さい。
- ・効果測定ができるのが大事です。どこまでできて到達したのか、目標を達成したのかがないと、ダラダラになるのではないかと気になります。
- ・身体活動増進という観点からは興味ある取組みであるが、市との協働事業という面からすると、活動のみならず効果の確認や検証が重要になると思われます。成果データの市との共有や活用について引き続き検討し、有効なしくみを構築して頂きたい。
- ・5年後自立という目標達成のための工程表を（早く）作って下さい。

期待すること

- ・市民・大学・行政が一体となって取り組む事業として、独自性のある事業であると思います。参加する市民の方が永く活動に参加し続けることが、ポイントになってくると思いますので、運用の際には、工夫・試行錯誤を積み上げていき、活動の定着を目指して下さい。
- ・参加者のコミュニティが広がり、活性化することを期待します。
- ・2つの大学との連携を進めて新しい身体活動増進「印西モデル」ができることを期待しています。
- ・高齢社会に向かって予防医療、健康年齢向上の為に是非頑張ってください。市の医療費負担の軽減に繋がるものと思われる。

各委員の参考意見（ふせんの転載）印西市特有？

- ・印西市特有のエンディングノートは考えづらいので、市と協働する事業としてふさわしいとは思えない。
- ・生存している間とはともかく、人生のエンディングにあたり地域性に特化する理由があるのだろうか。
- ・「印西市らしい」が明確に示せないとその事業は成立しない。すぐに答えられるようなイメージを確立した方が良いのでは？

協働 or 市民？

- ・市との協働によるエンディングノート本来の相乗効果が希薄である。
- ・「老いじたく」「終活」「エンディングノート」は市民活動として行ったほうがよいと思う。公的支援が直接入る意義がまだわからない。
- ・個人的な関心事によるものが大きく、市の協働事業としてふさわしいのか担当課の意見を聞きたい。
- ・エンディングノートの利用が自分と家族の人生にとり、大切なことであると理解できる。又、個人的にエンディングサポート風さんで利用された方にとってはとても有意義な支援であったと思う。しかし、まだそこまで意識の高い方がどのくらいいるのか疑問がある。また人生の最後にかかわることだけに、とても繊細な問題であり、もう少し市民の意識を向上させる必要があるのでは。必要であると思うが配布時期は早いように思える。
- ・エンディングノートの重要性は理解できるが結局の所、個人の問題にも思われます。市の協働事業とする意義（公共性）は、弱いように感じます。行政サービスとして必要な項目を協議して再検討すべきと思われます。
- ・「エンディングノートとは何か？」ということについては十分説明をいただいていると思いますが、なぜ、これを市の協働事業としてふさわしいのか、についての説明が不十分と考えます。個人の問題として関心が高いのは事実だと思いますが、そこに行政（市）が入っていくことについて、その必要性、公益性、正当性があること、の説明がほしいです。

事業内容への不安

- ・事業計画が少しあいまいか。
- ・市民のニーズが不明。
- ・配布対象・有償・無償区分等をもう少し明確にされた方がよいと思います。
- ・エンディングノートに書かれた個人情報管理が正しく管理されるのが不安。
- ・設立時、葬儀のサポートを行っていたこの事業者が最終的に目指している事業の活動の目的は、エンディングノートを入口として、登録申請書（2016年7月15日）によると、葬儀サポート、エコ棺の販売等に向かっていく、そういうビジネスモデルに一種の疑義を感じます。
- ・販売が目的ではないことがわかり、安心しました。

対象、拡げては？

- ・65才になった高齢者にエンディングノートを配布することは、これから、頑張ろうとする方に対して少し失礼ではないか。
- ・お話しにもありましたが、終活は高齢者限定ではないので、是非不安を持っている人の拡大を考え

て活動して行って下さい。

意義ある内容

- ・協働事業としては、一まつの不安はありますが、市民が興味を持っている課題だと思しますので期待しています。
- ・超高齢化社会を迎えて、印西市民に於いても「エンディング」は、重要なテーマであると思えます。従って、地域や市民ニーズは高いと思えます。

**提案7 平成28年度企画提案型協働事業（アイデア審査）
アドラー心理学による「勇気づけコミュニケーション」のすすめ
提案に関する委員会付帯意見**

- 1 指定テーマにふさわしい事業内容となるよう、担当課と議論を深めてください。
- 2 より幅広い市民を対象とした事業内容を検討してください。

各委員の参考意見（ふせんの転載）

新たな取り組みに期待

- ・カタチから入りがちな市（行政）に対して、「考える」から入る貴団体のアプローチは独創性があると思います。
- ・市の取り組みと是非連携して下さい。
- ・アドラー心理学を理解するだけでも必要であり、少しでも広がっていけば良いと思います。
- ・拡張性を期待して、総合評価を○としました。期待しています。
- ・男女共同参画の必要性が叫ばれる中で、子育て世代を対象とした取り組みは、最初は小さなものであるかもしれないが、重要なテーマであると考えられる。
- ・2013年6月より、すでに「勇気づけ勉強会」を開催して、150名余りの参加者を集めている…。アドラー心理学による新たな視点での啓発活動に魅力を感じる。又、予算年間15万円程度も適切だと思うし、市との協働事業として、ひとまずスタートする価値を感じる。

市との協働事業？

- ・「勇気づけコミュニケーション」そのものは興味深いが、指定テーマとの関連付けが弱いと思う。
- ・市との協働事業としてどのような効果があるのか不明。
- ・指定テーマである「男女共同参画」と本事業（アドラー心理学）との関係は抽象的には結びつく事は、おぼろげながら理解できるが、市の協働事業にふさわしいとは思えない。（ただしアドラー心理学「嫌われる勇気」に興味はある）
- ・指定テーマということで、「啓発事業」を行うにあたってのひとつの切り口として「アドラー心理学」を活用する、という提案内容と理解しました。もしかすると、コンペ形式あるいは、担当部局主催の提案募集方式の方がよいのかもしれませんが。（協働事業というカタチではなく）

協働事業・男女共同参画 目的を明確に

- ・担当課と十分な議論が必要。「市の事業」としての妥当性があるか、特定の考え方を広げる活動としないか留意が必要。
- ・市民にアドラー心理学をいかに理解させるのかが不明確。
- ・今の印西市で解決しなければならない課題、問題なのかが明確でないのが気になります。
- ・男女共同参画を達成するための、1つのツールとして、「アドラー心理学」がある、という位置づけを、明確にする必要がある。アドラー心理学を広げることは目的ではない。

「啓発」を含んだ事業計画作り

- ・啓発事業としての事業内容となっているのか。一部分への対象事業ではなくなるようにする工夫必要。
- ・この事業の広め方（宣伝）が不明。
- ・講座の実施についての概要は明確だが参加者をどのように増やすか、関心をもつ人をどのように増

やすか計画に入れてほしい。

- ・男女共同参画に関わる協働事業という観点からは、「勇気づけの子育て」+αの講座では少し内容が離れた感じが否めません。職場や家庭において男女共同参画時代に起こる諸課題についても心理学的観点から講座を設定して頂くような工夫を検討して頂きたい。

提案7

企画提案型協働事業

アドラー心理学による「勇気づけコミュニケーション」のすすめ

平成28年度最終審査 委員会総合意見

- 1 指定テーマ「男女共同参画に関わる啓発事業の実施」に基づき、新たな視点から講座事業が実施され、成果が得られるよう期待します。

各委員の参考意見（ふせんの転載）

まずはスタート・目標設定

- ・アドラー（“嫌われる勇気”はすでに爆発的に売れている）心理学による新たな視点での「勇気づけ勉強会」に魅力を感じる。又、積算金額年間15万円も適切だと思う。
- ・協働事業は、なにもすぐに目に見える成果のみを追い求めてはいけないと思う…。そのみだとうしても薄っぺらになると思う。市との協働事業として、ひとまずスタートすべき価値を感じる…。
- ・いつまでに何をどうしたいのか、どうすれば良いのか、落とし所を見つけておくことが必要ではないでしょうか。⇒目標設定

協働の意義・男女共同参画としての位置づけ

- ・日頃の「勇気づけサークルでこぼこピース」の活動の延長ではないのか。
- ・市との協働する意義はどこにあるのか。
- ・いかに、市との協働事業であるかを参加者に知らしめることが重要だと思う。では、どんな風にして、市が参画するのか、そのあたりが希薄である。
- ・「男女共同参画」とアドラー心理学との関連がまだよく理解できないが、印西市が「アドラー心理学」のまちとして話題になるのもいいかな…と思います。
- ・男女共同参画とアドラー心理学との関わりをもっと解り易くした方が良いと思います。
- ・男女共同参画に関わる啓発事業という視点では、やや講演内容との関係性が明確でないように思われる。指定テーマの趣旨が伝わるように講演会テーマや内容について整理して頂きたい。
- ・市との間で、男女共同参画事業として整理されたことは確認できた。一方、事業タイトルに「アドラー心理学」と入れることについては一定の違和感も感じる。「アドラー心理学…」が男女共同参画啓発であると理解される工夫をしてほしい。

事業の工夫でクリア

- ・指定テーマ型としての初めての取組みとなりますので、市・団体ともに、事業の実施の過程で、出てきた課題・懸念を整理し、協働事業としてより相応しい事業となるよう努めて下さい。
- ・アドラー心理学の基本的な考え方と男女共同参画との関連付けを講義の中で説明していただきたいと思います。